

はじめに

「国語の授業って、なんか意味ありますー？」

と、思い続けていた10代の頃。

(いま思い返してみても、学校の授業全般、習う意味があったのかと言われるとかなり疑問なのだが……それは話が長くなるので割愛)

とにかく退屈だった。

特に、古典。あれはもう呪文だ。

なんでわざわざ、「いま」に生きる私たちが、古くい失われつつある日本語を覚えなきゃならんのだ(きつと、そう思っていたのは私だけではないはずだ)。

でも、それから時がずいぶん経ったある日のこと。

ふとした瞬間に、『枕草子』の一節が飛び込んできた。

「まいて雁かりなどのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。」

この「をかし」という単語が、突然私の心をつかんだのだ。

「をかし」とは、それこそ国語の授業では「なんとなく趣おもむきのあること」と習った。

「なんとなく」。これはわかる。だが、問題は趣だ。「趣がある」。趣……おもむき……オムムキ？

「なんとなく」というふわっとした言葉と、「趣」という直感的に解釈できない単語が合わさったときの絶望的なまでの「つかみどころのなさ」に思考停止。私は考えるのをやめた……そのまま時が過ぎていった。

しかし、学校を卒業し、不本意ながら社会というものと関わることとなり、時には「オトナ」というコスプレをし、人間関係で困り果てたり、仕事や将来のことで思い悩んでみたり、多少のロマンスもあつたりなかつたりなど、ティーンエイジャーのときよりは、経験値や浅知恵のようなものがついてきた今日この頃。

私はその日、「をかし」をこう解釈した。

「ああ、『エモい』ってことが」

その瞬間、作者・清少納言の気持ちちが、ちょっとだけわかった気がしたのだ。

秋の夕暮れを見て、

冬の朝の寒さに震えて、

春の朝焼けの景色を見て、

夏の夜に雨音を聴いて、

「あ、これエモいな」と感じたことが、私にもあつたなと思った。

生まれ育った場所で、旅先で、あたらしい環境で、1人で、誰かと一緒に。

自分も、彼女たちと同じことをし、同じことを感じていたのだ。

いとをかしとは、「まじエモい。」だったのだ。

そんな経験をきっかけに、私はいろんな作品を集めて、読んでみた。

すると、たとえば「和歌」という限られた文字数の中で風景や気持ちを切り取ることがいかに神業かみわざか、そして、そこにどれだけの想いがこもっているのかを知る。

平安時代や鎌倉時代に書かれたエッセイや物語が、真理のようなものをコンパクトに言い当

てながら、不思議な魔力のようなものを帯びていることに気づく。

これらを、ただ現代語訳で終わらせるのではなく、いまを生きる私たちの感覚に寄せた言葉で表現できないだろうか？ もっと、彼らが表現したかった世界を、彼らが見ていた画えがを、感覚的に理解できないだろうか？

……そう考え、あれこれ試しながら書き溜めていたものをまとめたのがこの本です。

この日本に何万とある古典の文章や作品の中から、「エモさが爆発するよ！」「これは有名（そしてエモい）！」というものを、超訳ならぬ「エモ訳」で紹介していく……だけでなく！そこに現代の絵師であるイラストレーターさまたちの作品をお借りしました。

魂のこもったイラストと先人たちの言葉が合わさることで、言葉の中に眠っていた「何か」が飛び出してくるような不思議な感覚が生まれました。

なぜか、音が聴こえてくる、映像が見える、香りがする。記憶が呼び戻されるような言葉にできない感覚……。それはもしかして、先人たちが作品に込めた思いや力なのかも……？ その言葉にできない何かを存分に味わえる古典文学の選集のようなもの。それが、この本です。

解釈は一般的な現代語訳にのっとりつつも、「作者はこう思ってたんじゃないかな」「いまで言うところのことだよね」「核心は、ここだよね？」なんて、私なりに再解釈をしているので、だいたい飛躍しちゃっている部分もあるのですが、とにかく入門の入門くらいの感覚で楽しんでいただければ、これ幸いです。

テーマもいろいろ。恋愛も、季節の風景も、仕事も、学びのようなものも（私も一部だけ、コラムや解説を書かせてもらっています）。

パラパラと、心のままに、お好きに読まれてみてください。切なくなったり、勇気がわいてきたり、なんともいえない胸いっぱいな気持ちになったり。

そこに感じたことは、きっと、先人たちが感じたことなんだと私は思っています。

言葉とは、音。音とは、ものごとの始まり。時代を超えた先人たちの言葉たちが、作品たちが、あらたな陽を浴びていく、そのきっかけになればいいなと願い、ここに筆をおきます（正確にはタイピングをやめます）。

k o t o

本書の「エモ訳」は、巻末・参考文献の現代語訳をベースに制作しています。「感情」「思い」「シチュエーション」に重きを置いているため、詳しい言葉の意味や用法、技法などについては、ぜひ原典に近い資料や解説書をご覧になってみてください（出典元の番号は参考文献記載のもので、資料によって若干ばらつきがある場合もあります）。とにかく、なんかエモい感じになっていただけたら、とても嬉しいです。

いとエモし。目次

一章 孔雀青のエモ

1	ましむらここと	『関吟集』305	イラスト：Kupe	016
2	秋は夕暮れ	『枕の草子』1段より 清少納言	イラスト：furi(ふうり)	018
3	お月見	『風雅集』9083 祝子内親王	イラスト：pasoputi	020
4	寢起き	『古今集』552 小野小町	イラスト：麗将	022
5	心の花	『古今集』797 小野小町	イラスト：麗将	024
6	心がすく夜	『古今集』878 詠み人知らず	イラスト：麗将	026
7	聞けないのよ	『風雅集』1013 永福門院	イラスト：wacca エル・WAKA	028
8	もの想う夜	『徒然草』29段より 吉田兼好	イラスト：pasoputi	030
9	里恋しし	『万葉集』3134	イラスト：しまむらなせ	032
10	和歌について説明します <small>ちよと解説</small> 和歌集ってなんですか	『古今集』仮名序より 紀貫之	イラスト：どじら	034
11	花の記憶	『古今集』42 紀貫之(百人一首35番)	イラスト：はるな	038
12	春と夏のあいだで	『古今集』139 詠み人知らず	イラスト：杉87	040
13	見渡せば	『新古今集』363 藤原定家	イラスト：或る街の巨昼夢	042

14	寂寂	『風雅集』746 永福門院	イラスト：柳貞次郎	044
15	遠慮しておきます	『千載集』964 周防内侍(百人一首67番)	イラスト：やし	046
16	炎上した！	『後撰集』1211 詠み人知らず	イラスト：pasoputi	048
17	夕々に生きるとな	『新古今集』1034 式子内親王(百人一首89番)	イラスト：みなはむ	050
18	さよふつなら	『古今集』780 伊勢	イラスト：ゲン助	052
19	愛とは	『風雅集』1257 花園院	イラスト：防人	054
20	恋して大変	『拾遺集』641 詠み人知らず	イラスト：しまむらなせ	056
21	あふさかのへい あいません	『後拾遺集』939 清少納言(百人一首62番)	イラスト：あゆ	058

二章 不言色のエモ

22	桜なんて	『古今集』53 在原業平	イラスト：周曼	064
23	生きたがた	『後拾遺集』669 藤原義孝(百人一首50番)	イラスト：へちま	066
24	かつての都で	『後拾遺集』940 素意法師	イラスト：はるな	068
25	たましいの行方	『方丈記』3段 鴨長明	イラスト：小山皇	070
26	秘密	『新古今集』1160 和泉式部	イラスト：麗将	072
27	こむVSこじ	『万葉集』527 大伴坂上郎女	イラスト：tsun	074

28 吠える、鳴く、か細く
29 あかしくらし
30 旅の終わりと始まり

『千載集』3333 藤原俊成
『後拾遺集』529 藤原伊周
『言日記』松尾芭蕉

イラスト..しまひきしよせ
イラスト..周爰
イラスト..Iris

三章 紫式部のエモ

31 再会とお別れ
32 心のつかえ 浮いている
33 オシあう2人
34 受け継がれる想い
35 愛の果て
36 その先
37 子を思うゆえに
38 人ができること
39 なまめかしい花だよ。まったく
40 あなたはもしや
41 ばれた？

『新古今集』1499 紫式部(百人一首57番)
『紫式部日記』より 紫式部
『枕草子』286段より 藤原定子&清少納言
koto
『後拾遺集』536 藤原定子
『千載集』555 藤原彰子
『後撰集』1102 藤原兼輔
『拾遺集』263 藤原朝忠
『古今集』1016 僧正遍昭
『後撰集』1095 小野小町
『後撰集』1096 僧正遍昭

イラスト..さびきき辛
イラスト..葉音
イラスト..さびきき辛
イラスト..あんよ
イラスト..ゲン助
イラスト..Eto
イラスト..中塚理恵
イラスト..甲斐千鶴
イラスト..クリタミノリ

42 静御前ファンクラブ会報
43 しづ、しづ、しづ

『義経記』巻5・巻6より

イラスト..甲斐千鶴

四章 苔色のエモ

44 祈り
45 おもかげ1
46 おもかげ2
47 その後の景色
48 小野篁が天才すぎた件
49 行つてしまった
50 酒よ悲しみよ
51 ほたる
52 恋どいふもの
53 手をふつたのは
54 松になった少女
55 声を拾う

『古今集』343 詠み人知らず
『後撰集』508 詠み人知らず
『風雅集』1026 進子内親王
『風雅集』1023 進子内親王
『宇治拾遺物語』「小野篁、広才のこと」より
『古今集』407 小野篁(百人一首11番)
『万葉集』308、343、348 大伴旅人
『後拾遺集』1162 和泉式部
koto
『常陸国風土記』香取郡より

イラスト..中塚理恵
イラスト..wacoa
イラスト..おかゆー
イラスト..待井健一
イラスト..しまひきしよせ
イラスト..pasoputi
イラスト..Umi
イラスト..あしな
イラスト..雨森はむ

五章 朱鷺色のエモ

56	夏は夜	『枕草子』1段より	清少納言	イラスト..精滢	148
57	雨よ、ふれ	『万葉集』2513	柿本人麻呂	イラスト..厚将	150
58	天気なんて	『万葉集』2514	柿本人麻呂	イラスト..厚将	152
59	海辺にて	『新勅撰集』525	源実朝(百人一首93番)	イラスト..中村至宏	154
60	ゆめこい日誌その1	『拾遺集』629	詠み人知らず	イラスト..岡虎次郎	156
61	ゆめこい日誌その2&3	『拾遺集』630,631	詠み人知らず	イラスト..葉音	158
62	ゆめこい日誌その4	『拾遺集』632	詠み人知らず	イラスト..WACA	160
63	春の夜の夢	『新古今集』112	藤原俊成女	イラスト..はるころ	162
64	あーあ	『風雅集』1019	正親町実明女	イラスト..やsい	164
65	それもまた夢	『後拾遺集』879	奇宮女御	イラスト..ま	166
66	宇宙が見える	『はちすの露』良寛		イラスト..Kupe	168
67	冬はつとめて	『枕草子』1段より	清少納言	イラスト..Kupe	170
68	容疑者・翁丸	『枕草子』6段より	清少納言	イラスト..Kupe	172
69	あなたはどこで	『拾遺集』792	馬内侍	イラスト..Eiji	178

70	うふふ	『万葉集』20	額田王	イラスト..甲斐千鶴	180
71	えへへ	『万葉集』21	大海人皇子	イラスト..どもわか	182
72	は・ず・い	『拾遺集』622	平兼盛(百人一首40番)	イラスト..どもわか	184
73	波のように	『万葉集』3360		イラスト..周愛	186
74	離れがたい夜	『万葉集』3215,3216		イラスト..乱ノ介	188
75	幻のような出来事	『更級日記』7段	足柄山の遊女より	イラスト..中村至宏	190
76	「思い出す」って	『関吟集』85		イラスト..防人	194
77	契約更新	『狂雲集』559	一休宗純	イラスト..防人	196

六章 深緋のエモ

78	和歌について説明します2	『風雅集』序文より	花園院	イラスト..うらな	200
79	からくれなゐ	『古今集』294	在原業平(百人一首17番)	イラスト..うらな	202
80	表ど裏	k o t o		イラスト..中塚理恵	204
81	うらめしや、いとおしや	『続後撰集』1199	後鳥羽院(百人一首99番)	イラスト..中塚理恵	206
82	幾百年の孤独	『続後撰集』1205	順徳院(百人一首100番)	イラスト..Uomi	208

99	明烏	『風雅集』1634	花園院	イラスト…猿	210
98	異世界探訪	『風雅集』1435	藤原良経	イラスト…雨森ほむ	244
97	緑まだらな春	『新古今集』76	宮内卿	イラスト…Tazo	242
96	花を惜しむ	『風雅集』243	安嘉門院高倉	イラスト…防人	240
95	静心	『古今集』84	紀友則(百人一首33番)	イラスト…fun	238
94	鳴いほらどます	『古今集』137	詠み人知らず	イラスト…防人	236
93	静かなる情念	koto		イラスト…ささき幸	234
92	ホトケになれない	『平家物語』1巻5段より		イラスト…灰	232
91	真昼の月	上杉謙信 辞世の句		イラスト…中塚理恵	228
90	となりの諸行無常	『狂雲集』29	一休宗純	イラスト…中塚理恵	226
89	魚の骨のきみたちへ	『山家集』723	西行法師	イラスト…中村至宏	224
88	立ち、断つ、発つ	『風雅集』2061	花園院	イラスト…中塚理恵	222
87	マトリックス	『大和物語』171段「くゆる思ひより		イラスト…防人	220
86	煙も立たない火	『後拾遺集』599		イラスト…猿	214
85	女たちの物語	『新古今集』1147	西行法師	イラスト…猿	212
84	あの世からの伝言			イラスト…猿	210
83	生きてこそ				

七章 金糸雀色のエモ

111	風のように	『平家物語』1巻1段より		イラスト…ささき幸	278
110	魂で走れ	葛飾北斎 辞世の句		イラスト…防人	276
109	中くらいで	『おらが春』小林一茶		イラスト…鷹将	274
108	天下泰平に寄せて	『富士之煙』徳川家康		イラスト…おかゆ	272
107	特別な日	koto		イラスト…染平か)	270
106	好きにしよう	『閑吟集』55		イラスト…ささき幸	268
105	大晦日に	『古今集』341	春道列樹	イラスト…YUNOKI	266
104	えらい口坊主	『今昔物語』17巻33話より		イラスト…YUNOKI	258
103	道をつなぐ	『万葉集』4378	中臣部足國	イラスト…YUNOKI	256
102	うしろの「は」	『万葉集』4378	中臣部足國	イラスト…防人	254
101	ついでく道	『古今集』861	在原業平	イラスト…おかゆ	252
100	春はあけぼの	『枕草子』1段より	清少納言	イラスト…防人	250

イラストレーター・提供作品／参考文献

1章

孔雀青の工モ

Color of Kujiyaku-Ao

孔雀青^{くじやくあお}。別名「ピーコック・ブルー」。

その青く美しい羽の色は、
ここ日本でも、古くから愛されてきた。

その羽の目の模様は、
魔除けや幸運の象徴として、
その羽は、
文字を起こすペンとして使われてきた。

言葉よ、はばたけ。この青い世界に。
そんな願いを込めて。

1 まじろまじろ。くわいじや

『閑吟集』 305

室町時代の後期、当時愛された歌謡を集めた『閑吟集』からの歌、「袖」とは、古来「魂の宿る場所」として使われてきた言葉。荒ぶる戦国の世でも、平安の世でも、いまでも。感覚は時空を越える。

花見れば袖ぬれぬ
月見れば袖ぬれぬ
なにの心ぞ

花を見たら、泣けてきた。

月を見たら、また泣けた。

どこからか、

自然とあふれ出てくる気持ち。

これは、なに？

それはきつと